

パラグアイから友情大豆

地域ワイド

被災地に100トン提供へ

盛岡の業者、豆腐に加工

駐日パラグアイ共和国特命全権大使の豊歳直之さん、同国日本人会連合会長の小田俊春さんから関係者6人は13日、県庁を訪れ、同国産大豆を使った豆腐を東日本大震災の被災地に提供することを達増知事に報告した。本県からの移住者も多いパラグアイ。地球の反対側、遠く南米からの支援は、被災者の大きな励みとなりそうだ。



達増知事に大豆による支援と今後の友好関係を誓う（左から）福井一朗会長、小田俊春会長、豊歳直之大使

全権大使、県庁で報告

豊歳大使は「日本と盛岡市の平川食品の関係は深い。今後とも官民挙げて援助に力をいさつ。小田会長もわれわれは、いつまでも日本と共に歩んでい」と被災地へエールを送った。

大豆はパラグアイ政

府、同国イグアス市のイグアス農協、同連合会が提供。100トンの

輸出を予定し、本県は盛岡市の平川食品が豆腐に加工する。6月中旬から20万丁を被災地へ届ける予定だ。

パラグアイは大豆輸

出量が世界4位と生産

が盛ん。中でも今年入

植50周年を迎えるイグ

アス市の移住区は、日

系人を中心に南米でほ

んど作られていない

非遺伝子組み換え大豆

を生産し、8年前から日本に輸出している。盛岡市出身でイグアス日本人会の福井一朗会長(47)は「日本へ大豆を届けたいという夢を持ち農業を続けてきた。被災した日本、岩手を手を支援でき、うれしく思う」と力を込めた。達増知事は「地球の反対側から苦勞して作られた大豆が届き、被災地にとっても体と心のサポートになると思った。被災した日本、岩手」と感謝した。